



## 東地中海地域ニュース

### シリア：アラブ首脳会議（各国の参加見込）（3月19日付ハヤート紙、レバノン現地報道）

1. ダマスカスに駐在するアラブ諸国外交団は、自国の首脳がアラブ首脳会議に参加することを前提にシリア外務省と連絡を取っているが、首脳を迎える28日まで参加の可否、及び参加レベルについて予断を許さない状況にある。

現在までのところ、スーダン（バシル大統領）、イエメン（サーレハ大統領）、リビア（カダフィー指導者）、UAE（ハリーフ大統領）、カタール（ハマド首長）、クウェイト（ジャーベル首長）が出席を表明し、アルジェリア（ブテフリカ大統領）もOIC会議に出席したシャラ副大統領に参加の意向を伝えている。パレスチナのアッバス大統領も参加意向を示し、代表団にはファイヤード首相、クレア元首相、マーリキー外相、エラカート交渉局長が入る見込みである。

また、米国のチェニー副大統領の中東訪問、及びサウード外相（サウディアラビア）のアルジェリア訪問が参加首脳数、参加レベルに与える影響は未知数であるが、シリアは12から14の首脳の参加を見込んでいる。

その他、外相レベルでイラン（モッタキー外相）、トルコ（ババジャン外相）も参加する可能性が高い。サウジのカッターンアラブ連盟常駐代表は24、25日に開催される常駐代表会議出席のため、数日中にダマスカスを訪問する。

日本と中国は特使を派遣する予定である。

2. レバノンの出席問題

18日、セニオラ首相は定例会議を主催し、同首相に対するアラブ首脳連盟会議への接待が接したことを踏まえ、同首脳会議への対応振りを検討したが、「議論を尽くし、適切な決定を行うため」、同日の決定を先送りし、25日夜の次回定例会議において再度対応を検討することが決定した。

野党グループの多くは、レバノン代表としてセニオラ首相がアラブ連盟首脳会議に出席することに批判的であり、親政府グループの中でもジュンブラートとジャアジャアの両指導者は出席に反対しているが、消息筋によれば、ベッリ国会議長（野党グループに与するシーア派アマル指導者）はセニオラ首相がキリスト教マロン派のアザール財務省を伴って出席することを支持している。